

北区社協 だより

- ★北区地域福祉活動実践セミナーを開催しました……P2~3
- ★新琴似地区福祉のまち推進センター
モデル活性化支援事業の取り組み紹介……P4~5
- ★福祉除雪サービス協力お礼・共同募金実績報告……P6
- ★平成25年度 事業計画・予算……P7
- ★賛助会員紹介・募集、ボランティア保険の更新など……P8

編集発行／社会福祉法人 札幌市北区社会福祉協議会
北区北24条西6丁目 北区役所1階

TEL 011-757-2482 FAX 011-737-7270

「見守り・訪問活動」の輪を広げましょう！

「見守り・訪問活動」の輪を190万人の 札幌市民に広げようキャンペーン

～毎月3日は「見守り・訪問の日」です！～

これまで、平成7年度に始まった「福祉のまち推進事業」を基盤として、町内会・自治会、民生委員・児童委員をはじめとする関係者が連携・協力した「見守り・安否確認」などの日常生活支援活動を継続的に展開・拡大し、大きな成果をあげてまいりました。

しかし、札幌市における高齢化率は、超高齢社会の目安とされる21%を超える状況となり、認知症高齢者や単身世帯の増加とともに、孤立死・孤独死についての様々な報道が繰り返されるようになりました。そして、地域では報道には至りませんが、同様の事案が日常的に起きています。

こうした地域を取り巻く環境の変化に対応していくためには、町内会・自治会、民生委員・児童委員、福祉推進員といった地域の皆さんを中心に行ってきた「見守り・訪問活動」をさらに進めていくとともに、190万人の市民が日常生活の中で、お互いを気づかうやさしいまなざしで地域を見守っていく新たな視点が必要とされています。

こうしたことから、平成24年9月に開催された『地域福祉市民活動フォーラム』で採択された宣言文に基づき、190万人の札幌市民が「見守り・訪問活動」を日頃から意識していただけるようキャンペーンを実施していきます。



「見守り・訪問活動」
イメージキャラクター
「まもりん」

宣言文

- 社会福祉協議会、福祉のまち推進センターは、これまでの活動を確実に力強く続けていきます。特に「見守り・訪問活動」に力を入れていきます！
- 札幌市民一人ひとりが「見守り・訪問活動」に関心を持ち、日々の生活に取り入れられるように、毎月3日を「見守り・訪問の日」として制定し、見守り・訪問活動の理解と参加を190万人の市民に発信していきます！
- 札幌市民、多くの企業、組織、団体の賛同と協力を得て、お互いを気づかうやさしいまなざしで地域を見守ることの大切さを共有し、その輪を広げていきます！

北区地域福祉活動実践セ

北区社会福祉協議会と北区役所では、地域で活動する関係団体による連携協力のもとに取り組まれている『見守り・支え合い』を支援するため、「北区高齢者等要援護者見守り活動」を推進しています。

平成25年2月26日には、地域の課題解決に向けて取り組んでいる活動への理解を深めていただくとともに、今後の活動の推進と連携体制づくりのヒントとなる情報を共有することを目的としたセミナーを開催しました。

当日は、福まち活動者、町内会関係者、民生委員・児童委員など280名の参加があり、基調講演と「見守り・支え合い活動」実践者からの活動発表を行いました。



基調講演

「無縁社会に立ち向かえ！

～『孤立死ゼロ活動』から学ぶ地域福祉の在り方～

NPO法人シーズネット「さっぽろ孤立死ゼロ推進センター」
事務局長 杉谷 憲昭 氏



「地域での見守り」という課題が浮き彫りになったきっかけは、千葉県松戸市にある常盤平団地というところで、死後3年を経過した男性の遺体が見つかったという出来事でした。しかしながら、最初は「孤独死・孤立死」というキーワードはある意味タブーであり、なかなか取り組みが理解されませんでした。そうした中で一つのきっかけとなったのが著名なタレントや女優などの孤立死でした。年齢・性別に関係なく、誰にでも起こりうる事象であることが認識されはじめたのです。

現在、札幌市内の各地域では、モデル的に民間事業者との連携による見守り活動が進められています。灯油を配達するガソリンスタンド、新聞販売店、スーパーや配食業者による配達と、それぞれの地域特性に合わせて事業者と協定を結び、異変を発見した事業者は、各地域包括支援センターに連絡するという取り組みです。このようにして地域や企業、専門機関が連携しての取り組みが進められてきたわけですが、こうしたネットワークにあって最も重要な位置を占めるのが、一番身近な存在でご近所同士の支え合いである「福まち活動」なのではないでしょうか。

見守りには「目配り、気配り、心配り」という三つのキーワードが大切です。また「あいさつ」も欠かせません。我々はこれまで、これからの新たな地域社会の人間関係である「地域家族」を実現するための取り組みを行ってきたわけですが、そのためには三点のポイントがあります。

一点目は「人間関係」です。人間関係づくりで欠かせないのが「あいさつ」なのですが、あいさつしても返ってこないと続けるのがつらいですね。しかし、ここで諦めず、続けることが大切なのです。

二点目は「居場所」です。現在、各地域では「サロン」運営が活発になってきました。高齢者は時間や場所の制約がありません。サロンという居場所は多ければ多いほどいいのです。最近では「コミレス」といって参加者がそろって食事をとることで、つながりをつくるのが効果的といわれております。

三点目が「存在感」です。実際の地域の活動では「男手」が不足することが多々あり、男性の参加を呼びかけることが多いですが、なかなか積極的に手をあげる人が少ないですね。男性の「地域デビュー」の機会がもっと必要です。また、会社勤務から離れ、肩書きのない人間関係に慣れていない点も指摘されますが、一つの提案として地域の中で「防災」「福祉」等の「肩書き」をどんどんつけてはどうでしょうか。

ここまでお話しましたが、現在地域で不足しているのはスタッフやリーダー（コーディネーター）です。今日この話を聞いた方も是非手を上げてほしいです。人生に定年はありません。

『見守り・支え合い』



ミナーを開催しました



活動発表

「合言葉は、気づいて、受けとめて、専門機関につなぐ」

北区新琴似地区新琴似一番通北町内会 会長 菅野 義幸 氏

町内会の高齢化率を調べてみると38.6%と、とんでもない数字が出てきました。21%を超えると超高齢社会と言われるそうですが、うちは超が3つぐらい付く高齢化率で、私自身びっくりいたしました。

このような状況の中、町内での支え合い活動を進めようということになりまして、民生委員さんと一緒に1軒ずつ高齢者のお宅を訪問し、救急医療キットの配布、安心カードの配布を行い、大変喜ばれました。また、対象者を色分けして住宅地図に落とし込んだ福祉マップを作成し、日常の見守り活動とともに、大規模災害時には、新琴似連町・新琴似地区社協・北消防団との協定に基づいた要援護者支援につなげる取り組みを進めています。今後も、まずおかしいなと異変に気づいてあげる、そしていったん受けとめ、しかるべき専門機関につなげて、悲しい事故が起こらないよう取り組みを進めたいと思います。

活動発表

「安定剤を飲まなくても夜眠れるようになりました」

北区屯田地区季実の里ライラックの会 会長 山形 元博 氏

道営住宅自治会内で起こった孤独死を間近で見て、「不安だな」「恐ろしいな」「どうにかして早く見つけてもらえないだろうか」という声が自治会内でありまして、自治会として立ち向かっていくために「見守り活動」に取り組みました。

具体的には、まず閉じこもりがちな高齢者になんとか交流の場を作っていこうと考え、ドクター一等を講師に迎えて年間10回の出前講座を開催しました。また週1回少人数のグループによる憩いの場を設けて、高齢者がお互いに話をする中で、お互いが相談者でありカウンセラーにもなっているようです。

見守り活動については、高齢者に毎朝8時に玄関ドアに「元気印の花」を飾ってもらい、夜の8時にしまってもらよう習慣づけを進めました。この花を確認し、花が出ていないことで室内で倒れている高齢者を発見し、事なきを得た例もあり、この取り組みによって高齢者からは「安定剤を飲まなくても眠れるようになった」との声がありました。現在は「見守りセンサー付き携帯電話」の導入も進めており、独居高齢者が安心して暮らせる環境づくりを進めています。



オブザーバー

「遺品整理業から見た孤独死の現状」

株ルーツ・オブ・ジャパン 代表取締役 湊 源道 氏

我々の会社は遺品整理業務をしておりますが、最近は高齢者ばかりでなく20代・30代の方の遺品整理の依頼もあります。またゴミ屋敷となった家で孤独死しているケースというのも増えてきています。

孤独死して長い間放置された遺体というのは、季節にもよりますが、ひどい臭いが発生し、溶けてしまっている現場もあります。アパートなどの借家でこのような状況になると、溶けた遺体が畳を通り越して柱などに染み込んでしまい、原状回復するのに相当な金額が必要となるケースもあります。

また、私は3.11東日本大震災で被災し避難されてきた方の受け入れ支援にも取り組んでいますが、把握されているだけで1,400名の方が札幌に避難してきています。この中でも周囲から孤立し孤独死するケースが起きています。3.11は、災害の恐ろしさと同時に、無縁社会の中で人がつながることの大切さを教えてくれた出来事でもあったのかなと思います。

地域みんなで支え合い、 安心して生活

平成24年度地区福祉のまち推進センターモデル活性化支援事業

新琴似地区 福祉のまち推進センター の取り組み

地区福祉のまち推進センターモデル活性化支援事業は、地区福祉のまち推進センターの活動が、より地域住民の日常生活と密接に関わり、広く認知される活動として一層活性化することを目的に、北区内の1地区をモデル地区に指定して、重点的に北区社会福祉協議会が支援している事業です。

今回は、平成23年度に引き続き、モデル地区として活動した新琴似地区福祉のまち推進センターの活動の様子をご紹介します。

●これまでの取り組み

新琴似地区は、平成23年度の地区福祉のまち推進センター（以下、福まち）の新たな取り組みとして、「あんしんカードの作成・配布」、「住民意識調査の実施」などに取り組みました。

この取り組みによって、福祉の会（福祉推進委員会）の活動の活性化など一定の成果が見られましたが、一方で福まち活動の認知不足や災害時の助け合いの仕組みづくりなどいくつかの課題も見えてきました。見えてきた課題への対応について、役員で話し合いを進め、平成24年度の福まち事業を計画し進めていくこととなりました。

●24年度の取り組み

24年度の福まち事業を推進していくため、福まち運営委員を4つのチームに編成し、各チームのリーダー・サブリーダーを中心に企画・実施していかしました。

■研修会チーム

福祉推進員・協力員等研修会の開催

福祉推進員等の更なるスキルアップと情報交換を目的に、福祉の会の活動報告とグループ協議による全体研修会（6・3月）、番通ごとの研修会（11月）、参加希望制のサロンづくり研修会（9月）を開催。

■広報誌・講演会チーム

広報誌の発行

23年度の「住民意識調査の実施」により、「福祉のまち推進センターや福祉の会を知らない」という方が50%を超えていた結果を受け、福まち活動を広く周知していくために、新たに広報誌「新琴似地区福祉のまちだより」を作成。

一般住民向け講演会の開催

一般住民の福祉活動への意識啓発と福まちのPRを目的に、NPO法人シーズネット理事長の岩見太市氏を講師にお招きして、「ご近所づきあいと終（つ）のすみか」と題した講演会を開催。

人口	40,160人
世帯数	19,870世帯
年少人口	4,788人(11.9%)
生産人口	24,921人(62.1%)
老年人口	10,451人(26.0%)
町内会数	38町内会

平成25年
1月1日
現在



広報誌第1号



町でできる環境づくりを目指して

■意識調査チーム

高齢世帯アンケートの実施

23年度には一般住民を対象とした意識調査を実施したが、今年度は高齢者の実態把握を目的に、75歳以上の一人暮らし及び75歳以上のみの世帯を対象として、「日頃心配していること」や「どのくらいの頻度で訪ねてくる人がいるか」などの項目で実態調査を実施。

■福祉マップ・災害時要援護者避難支援チーム

福祉マップの作成

町内会ごとの住宅地図（白地図）を作成・配布し、各町内会単位で見守り対象者や支援者（推進員）などを住宅地図上に表記する「福祉マップ」の作成を推進。

災害時要援護者避難支援

大規模災害発生時の福祉マップの活用を目的に、新琴似連町・新琴似地区社協・北消防団による災害時要援護者情報の提供に関する協定を締結。

大規模災害発生時には、この協定に基づく情報提供により北消防団による迅速な安否確認や避難支援誘導等の支援活動が行われる。

■その他の取り組み

異世代交流事業

子育て世帯への福まちのPRもかねて、昔遊びなどを通じた高齢者と子どもの交流会を開催。福祉の会と連携し、地区内の2か所で実施。終了後には報告会も開催。

新琴似地区関係団体連携会議（地区社協事業）

地域福祉を実践している関係団体の連携を深め、今後の地域福祉のあり方について話し合う場として番通で3か所に分けて実施。

高齢世帯アンケートの結果（一部抜粋）

問) 日頃心配していること

①病気の予防、健康	41.0%
②除雪、雪捨て	38.0%

問) どのくらいの頻度で訪ねてくる人がいるか

①月1～3回	26.6%
②週2～3回	23.9%

問) どんなことについて知りたいか

①困った時の相談窓口	33.9%
②介護・福祉サービス	32.9%



協定書
調印式

異世代
交流事業



●取り組みの効果と今後の展望

23年度の取り組みから見えてきた「見守り体制が確立していない町内会への支援」、「災害時の助け合いの仕組みづくり」、「福まち・福祉の会の認知度を上げるための広報活動」、「更なる活動者の掘りおこし」などの課題に対して、各チームが企画した様々な取り組みが進められました。

活動者を対象とした研修会を複数回開催して、他の町内会・福祉の会での取り組みについて情報交流することで地区全体の福まち活動を底上げし、福まちの認知度を上げるため初めてとなる広報誌を発行するとともに、一般住民対象の講演会を開催し、また災害時の助け合い体制については、福祉マップの作成推進と札幌市内でも初めての取り組みとなる地元消防団との連携についての協定書を締結しました。

23年度から継続して、さまざまな新しい取り組みを進め、その効果が徐々に始めている新琴似地区ですが、今後これらの取り組みを継続し、さらに福祉マップの情報の充実や様式の統一、「ふれあい・いきいきサロン」・「異世代交流事業」の拡大など、新年度以降も、『地域みんなで支え合い、安心して暮らせる環境づくりを目指して』を合言葉に、福まち活動をさらに発展させていくこととされます。

新琴似地区社会福祉協議会（地区福祉のまち推進センター）

札幌市北区新琴似7条4丁目1番3号プラザ新琴似内 ☎763-9811

福祉除雪サービスへのご協力 ありがとうございました



福祉除雪サービスは、多くの地域協力員のご協力によって支えられている事業です。

地域協力員の皆様のご理解、ご協力に厚くお礼申し上げます。

平成24年度の福祉除雪サービスは、北区にお住いの685世帯の高齢者世帯・障がい者世帯が利用し、地域協力員の皆さまのご協力をいただいで無事終了することができました。

地域協力員のご紹介

幌北地区、北地区、麻生地区、新琴似地区、新琴似西地区、屯田地区、新川地区、太平百合が原地区、拓北・あいの里地区、篠路地区の皆様（各町内会より210名のご協力）、除雪個人ボランティアの皆様（30名）、NPO法人シーズネット様、NPO法人希望寮様、(株)リベラル様、セブンイレブン麻生町6丁目店様、大和開発工業(株)様、末広建築設計事務所様、HTS運転代行サポート様、札幌電気實業(株)様、新日技建開発(有)様、丸輝北都興業(株)様、(株)米山土建様、(株)グリーンガーデン様、(株)丸周中村土木様、(有)グリーンメンテナンス黒澤様、スミセキ・コンテック(株)様、便利屋 陸(株)様



平成24年度 赤い羽根・共同募金 実績報告

平成24年度も、10月1日から12月31日までの間で、「赤い羽根・共同募金運動」が実施されました。今年度も、たくさんのあたたかい募金をありがとうございました。いただきました募金は、札幌市共同募金委員会を通じて北海道共同募金会へ送金され、平成25年度の地域福祉事業のために有効に使われます。

ありがとうございました!!



①戸別募金(それぞれのご家庭からいただいた募金)

お願い額	構成比		実績額	実績額		お願い額達成率
	北 区	市全体		構成比	平成23年度との比較	
¥17,020,000	14.4%	100.0%	¥9,566,344	12.2%	H23 ¥9,920,966 増減額 -¥354,622	56.2%

②法人募金(企業や団体などからいただいた募金)

お願い額	構成比		実績額	実績額		お願い額達成率
	北 区	市全体		構成比	平成23年度との比較	
¥1,570,000	12.3%	100.0%	¥942,794	8.6%	H23 ¥803,318 増減額 ¥139,476	60.1%

③街頭募金(街中で呼びかけて、いただいた募金)

お願い額	構成比		実績額	実績額		街頭募金運動に参加していた方々の人数
	北 区	市全体		構成比	平成23年度との比較	
例年、設定されていません。	-	-	¥725,535	10.0%	H23 ¥150,053 増減額 -¥575,482	60団体・613人

平成23年度は、残念ながら天候に恵まれず、街頭募金運動の中止が相次ぎました。

①戸別募金 + ②法人募金 + ③街頭募金

お願い額	構成比		実績額	実績額		お願い額達成率
	北 区	市全体		構成比	平成23年度との比較	
¥18,590,000	14.2%	100.0%	¥11,234,673	11.6%	H23 ¥10,874,337 増減額 ¥360,336	60.4%

平成25年度 事業計画

1 地域福祉活動の推進

- (1)地区社会福祉協議会活動の強化・充実
- (2)福祉のまち推進事業の推進
 - ①地区福祉のまち推進センター活動費助成及び活動支援
 - ②モデル活性化支援事業（モデル地区／新川地区）
 - ③北区地域福祉活動実践セミナーの開催
 - ④地区福祉のまち推進センターの周知・広報
 - ⑤北区福祉のまち推進センター連絡会議の開催
- (3)ふれあい・いきいきサロン活動に対する支援
 - ①登録サロンへの運営費助成及び活動支援
 - ②ふれあい・いきいきサロン交流会の開催
 - ③ふれあい・いきいきサロンの周知・広報
- (4)地域福祉出前講座の実施

2 ボランティア活動の推進

- (1)ボランティア活動に関する相談・需給調整
- (2)ボランティア活動の情報提供
- (3)ボランティア研修会の開催
- (4)地域見守りサポーター推進事業
- (5)北区ボランティア連絡会の活動支援
- (6)ボランティア展2013の支援

3 高齢者福祉活動の推進

- (1)移送サービス事業の実施
- (2)福祉除雪サービス事業の実施
- (3)日常生活自立支援事業の実施
- (4)高齢者関係機関、施設、団体等との連携

4 障がい(児)者福祉活動の推進

- (1)移送サービス事業の実施[再掲]
- (2)福祉除雪サービス事業の実施[再掲]
- (3)日常生活自立支援事業の実施[再掲]
- (4)札幌市地域自立支援協議会北区地域部会への参加

5 福祉教育の推進

- (1)社会福祉協力校指定事業の推進
- (2)青少年関係機関・団体との連携

6 低所得世帯等福祉活動の推進

- (1)生活福祉資金の貸付相談
- (2)応急援護資金の貸付相談
- (3)特別生活資金の貸付相談

7 福祉啓発活動の推進

- (1)北区社協だよりの発行（年3回）
- (2)ボランティアセンターニュースの発行（年6回）
- (3)札幌市社会福祉協議会ホームページの活用

8 民生委員児童委員協議会活動の推進(事務局運営)

9 共同募金運動の推進(事務局運営)

10 会務の運営

平成25年度 収支予算

収入

(単位：円)

科 目	24年度予算(A)	25年度予算(B)	増減(B-A)
事業活動による収入…①	32,360,000	33,368,000	1,008,000
会費収入	1,099,000	979,000	-120,000
寄附金収入	300,000	480,000	180,000
市補助金収入	8,344,000	8,300,000	-44,000
共同募金配分金収入	1,452,000	1,655,000	203,000
助成金収入	16,642,000	17,159,000	517,000
参加費収入	27,000	27,000	0
負担金収入	4,430,000	4,670,000	240,000
受取利息配当金収入	36,000	93,000	57,000
雑収入	30,000	5,000	-25,000
施設整備等による収入…②	50,000	50,000	0
施設整備等寄附金収入	50,000	50,000	0
その他の活動による収入…③	450,000	7,400,000	6,950,000
基金積立資産取崩収入	0	7,000,000	7,000,000
サービス区分間繰入金収入	450,000	400,000	-50,000
前年度からの繰越金…④	6,882,000	8,034,000	1,152,000
収入計…①+②+③+④	39,742,000	48,852,000	9,110,000

支出

(単位：円)

科 目	24年度予算(A)	25年度予算(B)	増減(B-A)
事業活動による支出…①	33,397,000	33,548,000	151,000
法人運営事業関連支出	2,379,000	1,900,000	-479,000
地域福祉推進事業関連支出	22,277,000	23,171,000	894,000
福祉のまち推進事業関連支出	8,371,000	8,327,000	-44,000
基金運営事業関連支出	370,000	150,000	-220,000
施設整備等による支出…②	100,000	100,000	0
器具及び備品取得支出	100,000	100,000	0
その他の活動による支出…③	480,000	12,470,000	11,990,000
投資有価証券取得支出	0	12,000,000	12,000,000
社会福祉基金積立資産支出	30,000	70,000	40,000
サービス区分間繰入金支出	450,000	400,000	-50,000
来年度への繰越金…④	5,765,000	2,734,000	-3,031,000
支出計…①+②+③+④	39,742,000	48,852,000	9,110,000

あたたかいご寄附、ありがとうございました。

本会「愛情銀行」に預託し、北区の地域福祉推進のために有効に活用させていただきます。

平成24年
11月
～
平成25年
3月

■匿名様……………金10,000円

賛助会員を募集しています

本会では、地域における福祉活動を広く推進する財源を確保するため、賛助会員を募集し、会費を募っています。

北区ではこの会費を、車いす生活のため外出が困難な方のための「移送サービス事業」運行経費などに充てており、利用者の皆様に大変喜ばれております。

趣旨に賛同し、ご入会いただける方は、本会事務局、または、右記へのお振込をもって、ご入会をお願い申し上げます。

会費額 (年額)	個人(1口)1,000円 団体(1口)2,000円
振込口座 (郵便局)	02760-7-41893
口座名義	社会福祉法人 札幌市北区社会福祉協議会

平成24年11月1日から平成25年3月31日までに会員となっていた方と団体 [順不同]

個人会員

- 阿部尚人様 ■三間秀子様
- 山口靖様 ■須藤純子様
- 神野政幸様

団体会員

- 屯田三条西町内会 様 ■レジデンス篠路式番館自治会 様
- 新琴似四番通第1町内会 様 ■いちに町内会 様
- 鉄西第11町内会 様 ■たんぼぼ町内会 様
- 幌北第5町内会 様

ボランティア活動保険の 更新時期です

ボランティア活動保険とは、ボランティア活動中の事故を補償する制度で、ボランティア自身のケガ等はもちろん、相手にケガをさせてしまった場合や、活動場所の物品を壊してしまった場合等に適用されます。安心してボランティア活動に取り組んでいただくため、加入をお勧めしています。

- 年度末(3月31日24時)で失効する制度ですので、更新がお済みでない方は手続をお願いします。
- 補償期間は、社会福祉協議会の窓口で加入手続した翌日0時から、平成26年3月31日24時までです(平成25年度内、いつ手続きしても、平成26年3月31日24時をもって失効します)。
- 中途解約による保険料の払い戻しはありません。

保険料、詳しい加入手続き方法等については、社会福祉協議会までお問い合わせください。

札幌市福祉関係3団体の 再編統合に関するお知らせ

本年4月より社会福祉法人札幌市社会福祉協議会は、多様な在宅福祉事業を展開してきた財団法人札幌市在宅福祉サービス協会と社会福祉協議会を存続団体として統合いたします。

また、平成26年4月には、老人福祉センターの運営などを行っている社会福祉法人札幌市福祉事業団との合併を予定しています。

これまで独立した法人であった福祉3団体が再編統合することにより、それぞれの団体が実施してきた、「地域福祉に関する推進事業」、「在宅福祉に関する事業」、「施設福祉に関する事業」を、総合的かつ有機的に提供できる体制が整備されることとなります。

これまでも増して質の高い福祉サービスをご利用いただくとともに、市民一人ひとりの暮らしを尊重する福祉社会の実現を目指していきます。



なお、北区社会福祉協議会は、4月以降も独立した社会福祉法人として、これまで通りの事業を進めてまいります。変わらぬご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。